交雑魚（ハイブリッド魚）がもたらす養殖経営の変化

― 回転すしの採用に見る販路と取引構造 ―

農業経営コンサルタント協会 水産部会 発表資料 ・ 2026年9月28日 ・ 溝口 桃子

> 交雑魚は、ブリとほぼ同じ出荷サイクルで差別化できる魚を養殖業者にもたらしています。販路では回転すしのくら寿司とスシローがブリヒラとクエタマ／タマクエを採用し、チェーンはブリやマグロでは稚魚の生産や全量買取にまで関わり始めています。

1. 交雑魚（ハイブリッド魚）とは

異なる種の親を人工的に掛け合わせ、両親の長所を併せ持たせた養殖魚です。一般に「交雑魚」「ハイブリッド魚」と呼ばれます。

名称	組み合わせ	開発・生産	主な特長
ブリヒラ	雌ブリ × 雄ヒラマサ	近畿大学（1970年開発、人工種苗は近大のみ）	ブリの脂乗りと成長の早さ、ヒラマサの歯ごたえと色持ち
クエタマ（タマクエ）	雌クエ × 雄タマカイ	近畿大学は「クエタマ」、イヨスイ（愛媛・鹿児島で養殖）は「タマクエ」の名で販売。組み合わせは同じ。タマクエはイヨスイの商標	約2年で出荷可能（クエは2kgまで4〜6年以上）
カイワリ系交雑魚	カイワリ × 近縁種	さかなドリーム（開発中）	希少なカイワリの味を量産化

2. 通常の養殖と交雑魚の養殖の違い

最大の違いは「稚魚をどこから得るか」です。通常のブリ養殖は天然の稚魚（モジャコ）を海で採って育てますが、交雑魚は天然ではほとんど見られないため、すべて人工種苗から育てます。ブリよりやや成長は遅いものの、ブリと同じく2年以内に出荷でき、品質と売値で差がつきます。

観点	通常のブリ養殖	ブリヒラ養殖
稚魚の入手	天然のモジャコを採捕。県知事の特別採捕許可が必要で、4〜7月頃・許可期間は原則23日以内（農林水産省）。養殖用の天然種苗は年約2,000万尾で、人工種苗はその5%程度（水産研究・教育機構）	100%人工種苗。近大がブリの卵にヒラマサの精子をかけて生産（近畿大学水産研究所）
入手時期と出荷	採捕は4〜5月に集中し、どの産地もサイズが揃ってしまう（水産研究・教育機構）	人工種苗は天然と違う時期に供給でき、出荷の時期やサイズを調整しやすい（水産研究・教育機構）
稚魚の調達先	各地の採捕漁業者。漁況で数が年ごとに変わる	近大のみ。養殖できるのも近大が認めた業者に限られる
成長	2年目の秋に4kgに育ったものから出荷（YUIME）	ブリよりやや成長は遅いが、ふ化後1年11か月で約4kgに達し、ブリと同様に2年以内に出荷を始められる（升間ほか 2016）
品質	脂乗りと旨味が強い。3年目の春に産卵すると身質が不安定になる（YUIME）	ブリの脂乗りにヒラマサの歯ごたえ。身の変色が遅い（くら寿司）。血合いが小さく、チルド保管で5日程度おいしく食べられる（宇和島の生産者）
飼料	EP・MPなどの配合飼料が主流	同様の配合飼料。アセロラブリヒラは、アセロラの搾りかすを多く配合した餌を与える（近畿大学）

売値	相場で変動する	ベイシアのアセロラブリヒラは100gあたり499円で、養殖ブリの約1.5倍（2024年6月、テレ東BIZ）
種苗づくりの難しさ	天然種苗が中心。人工種苗の場合も、同じ種の親魚から卵を取り続けられる	毎回、2つの種の親魚を交配して作る。異種間の交配は、相性によって受精率やふ化率が低い場合がある（近大 種苗センター、クエタマの例）
逃げた場合	天然にいるのと同じ種	在来種に影響するおそれが指摘されている（大日本水産会）

クエタマは「育つ速さ」そのものが変わります。クエは商品サイズの2kgまで4〜6年以上かかります。クエタマは交配から2年後で4.15kgに育ち、同じ期間のクエ（1.09kg）の3.8倍でした（近畿大学、2016年）。ブリヒラが「ほぼ同じ期間で高く売れる魚」なら、クエタマは「高級魚を短い期間で育てられる魚」で、資金を寝かせる期間が大きく縮まります。

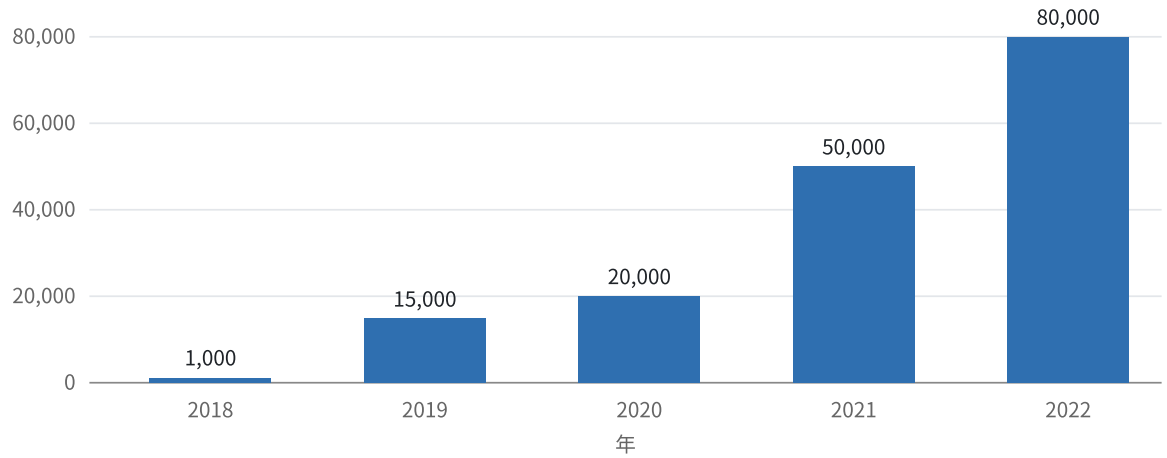
養殖経営・収益性へのインパクト

ブリヒラはブリとほぼ同じ出荷サイクルで、色持ちと食感に優れた魚を作れます。資金回収期間を延ばさずに、差別化できる点が経営上の最大の利点です。

観点	内容	養殖経営上の意味
成長速度	ブリよりやや遅いが、ふ化後1年11か月で約4kg。ブリと同様に2年以内に出荷（升間ほか 2016）	資金回収期間はブリ養殖とほぼ同じ。クエタマも約2年（クエは2kgまで4〜6年以上）
色持ち	身の変色が遅い（くら寿司）。血合いが小さく、チルド保管で5日程度おいしく食べられる（宇和島の生産者）	廃棄ロスが減り、チェーンの加工・物流の時間に耐えられる
養殖適地	比較的高い水温の海域が適すると推測される（升間ほか 2016）	水温が高めの漁場でも選択肢になりうる
種苗	人工種苗を生産できるのは近大のみ	天然稚魚（モジャコ）の漁況に左右されず計画生産できる。反面、調達先は1か所
単価の参考	生産者直販で1尾3.5〜4kgが6,800円（税込）	1kgあたり約1,700〜1,950円（試算。小売価格で、浜値ではない）

ベイシアのブリヒラ販売は4年で80倍に

近大の人工種苗から育てたブリヒラの販売尾数（尾）



出典：ベイシア プレスリリース（2023年1月）・2018〜2022年

ベイシアは2019年7月に全店で15,000尾限定の販売を始め、2021年6月から年5万尾以上の本格販売に移りました（売上6億円が目標）。くら寿司も同年11月に採用しています。近大の最新の種苗生産尾数は公表されていません（2002年に50万尾以上との報告あり：升間ほか 2016）。

収益性の検討：ブリヒラの養殖は儲かるか

論点：ブリヒラはブリとほぼ同じ期間で出荷できます。それなら、手間のかかる人工種苗を使うぶん、採算は悪くなるのではないか。

結論：採算は「稚魚の値段」と「売値の上乗せ」の兼ね合いで決まります。どちらも公表されていないため断定はできませんが、稚魚代が天然の2倍程度に収まり、売値を1〜2割上乗せできれば元が取れる計算です。加えて、売り先と価格を事前に決めやすいことが強みです。

1. **稚魚づくりの手間は「稚魚の値段」として養殖業者に跳ね返る**：2種の親を毎回掛け合わせる手間や受精率の低さは、稚魚の値段に反映されます。ブリ養殖の生産原価（1kgあたり約680〜700円）のうち、種苗代は個人経営体で約2割（129円）、会社経営体で約1割（71円）、中心は餌代（67〜82%）です（水産庁、2012年）。稚魚の値段が2倍なら原価は1〜2割、3倍なら2〜4割上がり、値段次第では採算を圧迫します（下の試算）。
2. **売値の上乗せでどこまで吸収できるか**：必要な上乗せは、稚魚代が天然の2倍なら1〜2割、3倍なら2〜4割です。参考までに、ベイシアの店頭ではアセロラブリヒラがブリの約1.5倍で売られています（テレ東BIZ。小売価格で、浜値＝産地での養殖業者の出荷価格ではありません）。
3. **もう一つの強みは「価格と量が読めること」**：天然の稚魚は不漁の年があり、2021年の記録的な不漁は翌年のブリ価格の高騰につながりました。人工種苗なら毎年計画どおりに仕入れられ、チェーンと決まった量・価格で取引できれば相場に左右されにくくなります。身の変色が遅く売る側の廃棄が減ることも、高めの値段の裏付けになります。

試算：稚魚代が天然の何倍か	1.5倍	2倍	3倍
個人経営体（種苗代129円/kg、原価680円/kg）	+65円/kg（約+10%）	+129円/kg（約+19%）	+258円/kg（約+38%）
会社経営体（種苗代71円/kg、原価696円/kg）	+36円/kg（約+5%）	+71円/kg（約+10%）	+142円/kg（約+20%）

※原価の増加分＝元を取るのに必要な売値の上乗せ。種苗代は死んだ分を含めた実費ベース（水産庁、2012年）。ブリヒラの稚魚の値段と浜値は公表されていないため、倍率は仮定です。生存率や育成期間の差は考慮していません。

リスクと限界：規模はまだ小さく、ベイシア1社の販売は2022年に約8万尾、これに対し養殖用の天然稚魚は年約2,000万尾あります。稚魚を作れるのは近大だけで、扱えるのも近大が認めた業者に限られます。出回る量が増えれば上乗せ分が縮む可能性があり、アセロラブリヒラは原料のアセロラ粉末の不足や輸入餌の高騰が課題として報じられています（テレ東BIZ）。

クエタマとの対比：クエタマは2年でクエの3.8倍に育つため、餌代や網の費用、資金を寝かせる期間そのものが減ります。ブリヒラは「売値と安定性」で、クエタマは「育つ速さ」で採算が変わる魚です。

3. 販路：回転すし各社の採用状況

大手で公表・報道があるのはくら寿司とスシローの2社です。いずれも期間限定フェアの目玉ネタとして投入しています。

時期	チェーン	内容
2026年1月	スシロー	「活〆ブリヒラ」（180円）の提供を店舗で確認（来店レポート）
2025年1月	スシロー	愛媛県宇和島の養殖業者が全国の店舗へブリヒラを供給。1月8〜25日のフェアで販売（生産者告知）
2024年6月	くら寿司	「アセロラブリヒラ」を全店で販売、280円。アセロラブリヒラの販売として回転すし業界初（近畿大学）
2023年7月	スシロー	「にっぽんの海からうまいもん祭」で「活〆ブリヒラ」初登場（グルメ Watch）

2022年7月	スシロー	「鹿児島県産タマクエ」を全国で期間限定販売、330円。イヨスイが錦江湾で養殖（FOOD & LIFE COMPANIES）
2021年11月	くら寿司	大手回転すしで初めてブリヒラを限定販売、220円（くら寿司）

スシローでは、近大の「クエタマ」も発表者が店舗で確認しています（公表資料は未確認）。同じクエ×タマカイを、近大とイヨスイの2ルートから仕入れていることになります。

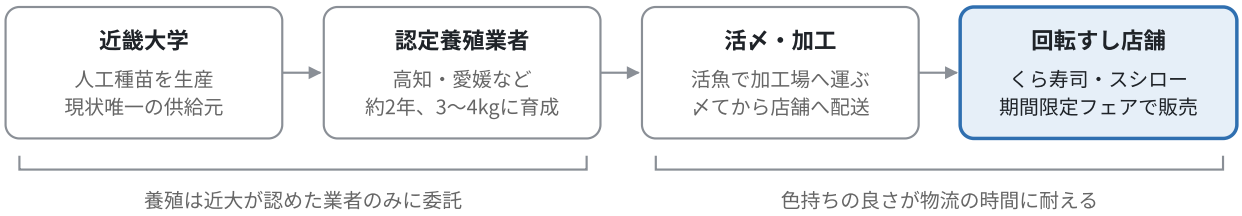
はま寿司、かっぱ寿司、魚べい・元気寿司、銚子丸については、交雑魚を採用した公表・報道は見つかりませんでした（採用していないとまでは言えません）。

回転すし以外の販路もあります。スーパーのベイシアは2022年に約8万尾を販売し（2章）、宅配すしの銀のさらも2024年4〜7月に「近大生まれブリヒラ」を数量限定で販売しました。量ではスーパーが大きく、回転すしは知名度を上げる役割を担っていると言えます。

4. チェーンとの取引構造

ブリヒラは「近大の種苗 → 近大が認めた養殖業者 → チェーン」という閉じた流れで供給されています。「ブリヒラ」は近大の登録商標です。

ブリヒラは近大の種苗から認定養殖業者を経てチェーンへ届く



チェーンは魚を「買う」だけでなく、養殖の上流まで関わりを深めています。ブリヒラ自体は、まだフェア単位で買う段階です。

関わりの深さ	仕組み	事例
購買	養殖業者から期間限定フェアの分を仕入れる	くら寿司・スシローのブリヒラ
委託養殖・全量買取	水産子会社が種苗を入れる時点で全量買取を約束。中長期の契約	KURAおさかなファーム（くら寿司の100%子会社、2021年11月設立。本マグロ・オーガニックはまち）
自社で種苗生産・稚魚販売	人工種苗の稚魚を自社で生産し、共同出資会社を通じて養殖業者に販売。育った成魚は自社で買い付ける	スシロー運営のF&LC（2025年12月。拓洋（熊本市）と共同出資したマリンバースがブリの稚魚を販売し、尾鷲物産（三重県尾鷲市）が養殖。2027年にブリのすし約100万皿分を見込む）

全量買取の契約は、養殖業者にとって売り先と収入の安定につながります。一方で、売上が特定のチェーンに偏ることにもなります。

国も、2050年までにブリ養殖の人工種苗比率を100%にする目標を掲げています（日本経済新聞 2025年12月1日「スシローのF&LC、ブリ稚魚を人工種苗生産」）。天然稚魚から人工種苗への移行は、チェーンと国の両方が後押ししています。

出典

- くら寿司「大手回転寿司初！近大生まれの『ブリヒラ』限定販売」（2021年）https://www.kurasushi.co.jp/author/003040.html

- 近畿大学「『アセロラブリヒラ』をくら寿司全店舗で販売」（2024年）https://www.kindai.ac.jp/news-pr/news-release/2024/06/042530.html
- 近畿大学「『ブリヒラ』をベイシア全店舗で限定発売」（2019年）https://www.kindai.ac.jp/news-pr/news-release/2019/06/017037.html
- グルメ Watch「『活〆ブリヒラ』がスシローに初登場」（2023年7月）https://gourmet.watch.impress.co.jp/docs/interview/kodawari/1516310.html
- 食べチョク（こもこもShop）「養殖ブリヒラ 全国のスシローへ」（2025年1月）https://www.tabechoku.com/producers/29190/articles/1021449
- 来店レポート（ブログ）スシローの活〆ブリヒラ（2026年1月）https://yanogawa.wordpress.com/2026/01/06/%E6%AF%8E%E5%BA%A6%E3%81%8A%E9%A6%B4%E6%9F%93%E3%81%BF%E3%81%AE%E3%82%B9%E3%82%B7%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%81%A7%E6%9C%AC%E9%AE%AA%E4%B8%AD%E3%81%A8%E3%82%8D%E3%81%A8%E3%81%8B-2/
- FOOD & LIFE COMPANIES「ハタ科の新魚種『タマクエ』が全国のスシローで販売」（2022年）https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000334.000049164.html
- 升間主計ほか「交雑種ブリヒラの養殖対象種としての可能性」月刊養殖ビジネス（2016年6月）https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=201602255754927310
- こもこもShop「養殖ブリヒラ」https://comocomo-shop.com/product/burihira-kinnkidaigaku/
- ベイシア「『アセロラブリヒラ』を開発」（2023年1月）https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000161.000069349.html
- ダイヤモンド・チェーンストアオンライン「ベイシア、ブリヒラ全店舗販売開始」（2021年6月）https://diamond-rm.net/sales-promotion/86492/
- ライドオンエクスプレスHD「銀のさらで『近大生まれブリヒラ』を販売」（2024年4月）https://www.rideonexpresshd.co.jp/news/2024/04/-2024415715web1httpswwwginsarajpcampaign202404-ongaeshi-12024415715web-httpswwwginsarajp1-464-1-2138.html
- 近畿大学水産研究所「近大ブリヒラ」https://www.kindaifish.com/picturebook/kindaiburihira/
- アーマリン近大「ブリヒラ」https://www.a-marine.co.jp/buri-hira/
- くら寿司「KURAおさかなファーム 委託養殖による本マグロを初出荷」（2025年5月）https://www.kurasushi.co.jp/author/006469.html
- 日本経済新聞「スシローのF&LC、ブリ稚魚を人工種苗生産 養殖し店舗で提供」（2025年12月1日、会員限定）https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUF2845R0Y5A121C2000000/
- 大日本水産会 魚食普及推進センター「ブリヒラ、クエタマ…ハイブリッド種とは？」https://osakana.suisankai.or.jp/s-other/9491
- 旬の魚介百科「タマカイとクエタマやタマクエ」https://foodslink.jp/syokuzaihyakka/syun/fish/%E3%82%BF%E3%83%9E%E3%82%AF%E3%82%A8.htm
- Kepple「さかなドリームのハイブリッド魚」https://kepple.co.jp/articles/v8ha1s928
- 農林水産省「参考資料2 モジャコの採捕について」https://www.maff.go.jp/j/jas/kaigi/pdf/060726_bukai_h.pdf
- 水産研究・教育機構「第3回ブリ類養殖振興勉強会 資料概要」https://www.fra.go.jp/home/cooperation/platform/seriola_workshop/files/3rd_meeting_document_summary.pdf
- YUIME「ブリの養殖で年数・年齢別に正しい育成方法を教えて」https://yuime.jp/post/bigin-aquaculture-yellowtail-years
- テレ東BIZ「うまみがすごい『アセロラブリヒラ』とは？」（2024年6月）https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/business/entry/202406/153316.html
- 近畿大学「『クエタマ』を直営店にて数量限定で初提供」（2016年12月）https://www.kindai.ac.jp/news-pr/news-release/2016/12/010534.html
- 近畿大学 水産養殖種苗センター「vol.32 クエタマ種苗の生産中」（2025年7月）https://aqua-seed.kindai.ac.jp/real_opinions/blog/2025/07/006004.html
- 水産庁「平成25年度 水産白書 第1部第I章 我が国養殖業の経営の実態」https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/h25/attach/pdf/25suisan1-1-2.pdf
- つりニュース「養殖ブリ価格高騰の理由はモジャコの不漁」（2022年8月）https://tsurinews.jp/217377/